

浦安市図書館友の会NEWS LETTER No13.



浦安市図書館友の会
平成6年7月8日発行

友の会第15回例会：1994年6月10日（金）

出席者：奥、菊竹、佐々木、東郷、中村、服部、舟田、

ついに。暑い夏に突入しました。麦茶（酒？）のおいしいシーズンです。皆様、いかがお過ごしですか。

新しい名簿が出来上がりましたので、皆様のお手許にお届けします。また、6月は、特別整理期間がありました。日頃、覗くことのない舞台裏とも言えるこの期間、図書館の御厚意で見学、取材をしてきましたので、その様子も、写真を交えてお伝えします。

◆今月の報告

*6月の例会では、予定通り、細則について検討しました。

会員及び会費に関しては、

(1) 個人会員・家族会員 会費 1000円

(2) 特別会員 会費 一口1000円、二口以上何口でも可

・家族での加入については、会員証の発行にかかる実費のみ徴収とする。

・会費を払わない特殊な会員（名誉会員など）については、役員会に一任とする。

以上のような方針で、舟田さんが、文章としてまとめてきてくださることになりました。

*懇親会費として、1000円を集めました。



展示について（講師 Mr. 斉藤）

89から始められた展示は、そのテーマに関する基本図書を収集することを大きな目的として行われています。昨年より8つの蔵書構成グループに分かれて活動するようになりました。作業は図書館が閉館したあとの6時以降に行うので大変です。何より励みとなり嬉しいのは、利用者が立ち止まって見ていたり、良い評判を聞いた時だそうです。手間暇かけた展示、じっくりと見たいですね。

資料係の仕事（講師 Mrs. 斉藤）

文字通り資料を整えるのが資料係の仕事で、利用者に資料を使ってもらえるための縁の下で力持ちの役割を担っています。具体的には図書資料の選択と収集、発注と受け入れ、編入と移管と保存、廃棄の作業があります。毎週600～700冊の新刊に目を通し、年間5万5千冊の本を受け入れているので、その仕事は超多忙を極めます。またこれだけの新刊本を受け入れるスペースを確保するためには書架から本を抜く必要が有りますが、これはとても難しい作業だそうです。お話を伺って、図書館の本は常に生きて動いているのだということが良く解りました。

◆ 次回の友の会例会は、7月8日 1時30分からです。
話し合いの内容は、募集要項について
学習は、「浦安市図書館の障害者サービスについて」です。

浦安図書館ツアー

6月23日、特別整理のため休館中の図書館を見学しました。

例会の際に副館長の常世田さんから、「3人一組で1日6000冊のノルマ」など特別整理についてのお話を伺った後だったので、“棚卸しグッズ”をみつけて「あ、これだ」と喜んだり、高い棚の分厚い本を見ると「なるほど、これを引き出して点検するのはかなり腕力があるだろうな」と納得したり、興味深く見学しました。

私達が普段接するのはいきいきと活動中の図書館です。普段の図書館のあの活動は、一冊一冊バーコードをなぞって本の所在を確認し、迷子の本を捜し、すべての本をあるべき場所に並べる、という、多くの時間と図書館員の方々の体力を投入してのこういう大掛かりな作業によって支えられている、ということがよくわかりました。

点検を終え、それぞれの居場所に並んで新たな出番を待っている本を見てみると、図書館の本一冊一冊の持つ重みが感じられました。